

第一校下のまいぶんマニュアル

1. 第一校下ってこんなところ！

地形／第一校下の大半は梯川が流れる平野にあります。

ここには弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がり、人々が生活したむらや有力者の住まいのあとなどがたくさん見つかっています。

校下の一部（若杉町や八幡）は平野が見わたせる丘陵にあります。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



年表に登場する遺跡その1／漆町遺跡群（漆町・金屋町・白江町・若杉町）

おもな時代は弥生時代～平安時代（遺跡の全体では江戸時代までのものが見つかっています）。

教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」～「貴族のくらし」。

ポイント①＝弥生時代の終わり（卑弥呼の時代）からつづくむらのあと。

ポイント②＝遺跡の範囲は広く、第一小学校もこの遺跡の範囲の中にあります。

ポイント③＝今の体育館やプール、校舎(改築棟)を建てる前に発掘調査がおこなわれ、弥生時代～古墳時代の建物跡やむらをかこむ溝、平安時代の建物跡や井戸などが発見されました。平成21年(2009)の調査では、児童のみなさんも体験発掘に参加しています。

ポイント④＝「金屋町」での発掘調査では、室町時代～江戸時代の鋳物づくりのあとが見つかりました。「金屋」は金属加工の作業場を指す言葉で、地名と遺跡が一致したと言えます。

年表に登場する遺跡その2／佐々木遺跡（佐々木町）

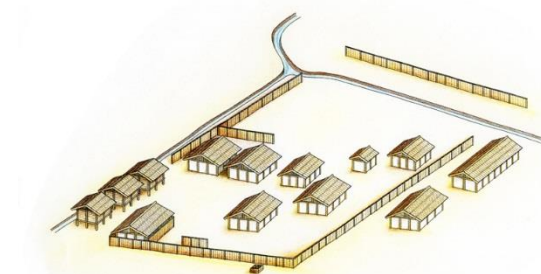
おもな時代は奈良時代。教科書の小単元は「天皇中心の国づくり」。

ポイント①＝聖武天皇の時代に築かれた重要な施設のあと。

ポイント②＝柵でかこまれた敷地に建物跡が整然とならんでいたため、役所や私寺、有力者の住まいなど、いろいろな説があります。

ポイント③＝当時の行政区分「国・郡・郷・里」を表す「野身郷」や、有力者の財部氏がつくったと考えられる「財部等」と書かれた土器が発見されています。

昔は「能美郡野身郷」と呼ばれていたんだよ



佐々木遺跡の建物群復元イメージ



第一校下の遺跡



地形の説明



漆町遺跡紹介



佐々木遺跡紹介

2. もっと知りたい第一校下のれきしじまん

弥生時代から続く梯川沿いのむら

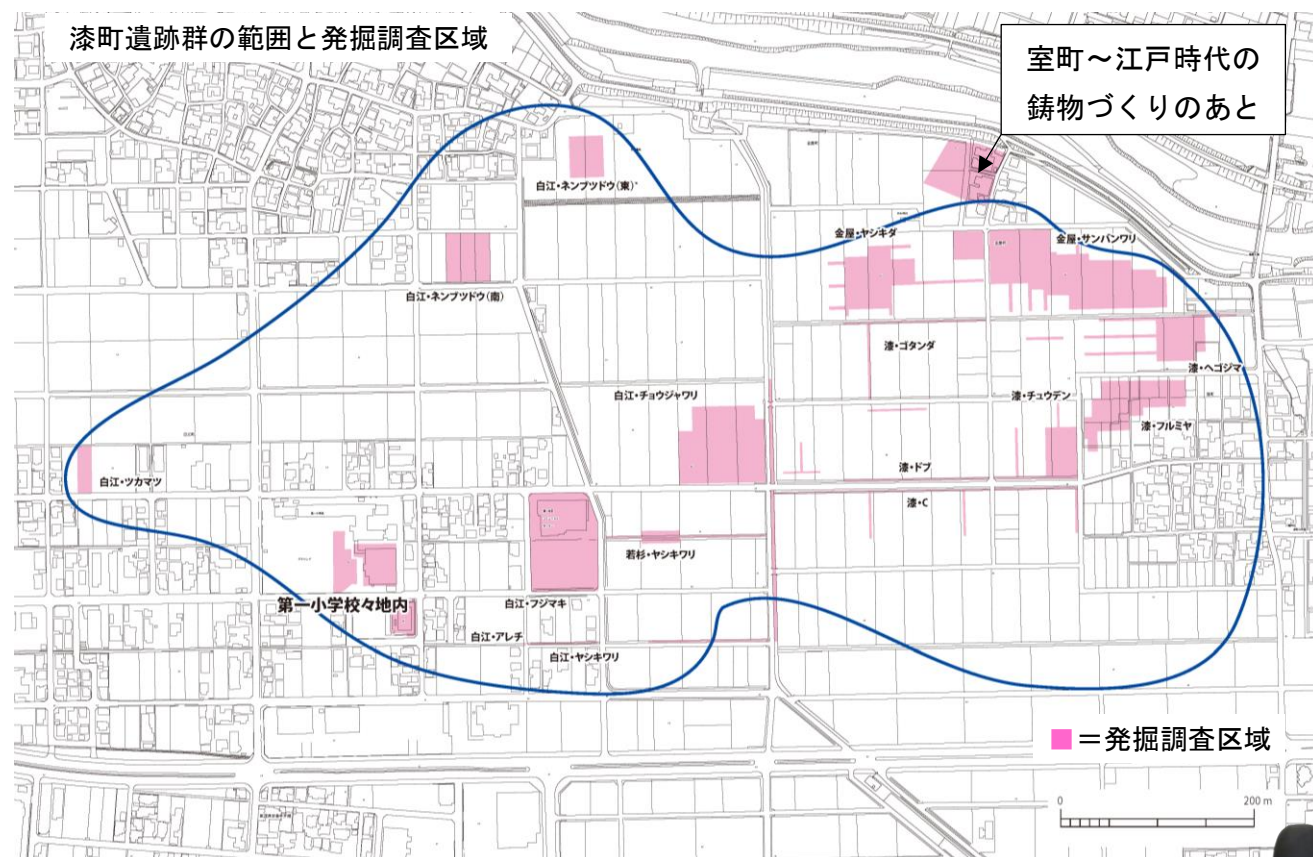
漆町遺跡群

●遺跡のあるまち／漆町・金屋町・白江町・若杉町

●キーワード／米づくり、むらからくにへ、豪族、律令、役人、石帯、佐々木遺跡、加賀国府

漆町遺跡群は、梯川沿いの第一小学校を含むエリア一帯に広がる大遺跡群です。米づくりが始まる弥生時代、むらからくにへと大きくまとまっていく頃、人々が住み始めました。精巧な木製の高杯（脚付きの食器具）などを所有する力のある豪族たちは、やがて律令社会へと変化する中で役人となり、政治に参加するようになります。役人が身につけていた帯飾り・石帯も出土しました。

さらに、東側の佐々木遺跡では奈良時代の整然とした建物跡群が見つかっています。これらの発見は、梯川をさかのぼった「加賀国府」（国府校下にあったと推定される平安時代に誕生した加賀国の政治と文化の中心）に由来すると考えられます。第一校下のある梯川流域は、小松の古代史を語る上でとても重要な場所です。



弥生時代～古墳時代の出土品



精巧な木製高杯

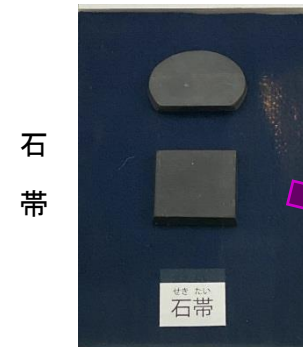


鳥形の土器

奈良・平安時代の出土品



まじないが書かれた木簡



石帯

